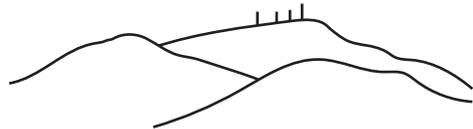


Youth Manna

2019/3/18 - 3/24



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2019/3/18(月)

出エジプト 35:1-19

神様は幕屋に必要なものを「進んで献げる心のある人」から受け取るように言いました。神様は私たちの能力や力を見ているのではなく、心を見ていることに注目しましょう！例え私たちがどんな素晴らしく見えることをしたとしても、私たちの心に愛がないのなら、それには何の意味もありません（1コリント 13章）愛で満ち溢れるように祈ろう！

冒頭には安息日を守るように厳しく言われているね。安息日は、自分の手を止めて神様を覚え、感謝を献げるためにあるものです。いい加減にするのではなく、命をかけるくらい真剣に、喜んで神様を覚えるべき日ですね。このように命じている神様の心を受け取ろう！神様がどれほど私たちの心が神様に向くのが嬉しいことなのかを覚えて神様に祈ろう！

2019/3/19(火)

出エジプト 35:20-35

神の臨在の象徴である幕屋は、金や銀、高級な糸などが使われて、とても美しい物だったよ。イスラエルの民は、その材料を喜んで進んで献げたよ。(29)そしてそれを作るために知恵と英知と知識とあらゆる仕事において神の霊に満たされた人達は、自分の能力を用いて喜んで作ったよ。(31.35)幕屋は神様の言われたことに従うだけではなく、喜んで献げる人の心があって建てられた素晴らしいものだったよ！

きみは礼拝を喜んで自分を献げているだろうか？神様が喜び満ちして下さるようにもっと祈ろう！！

2019/3/20(水)

出エジプト 36:1-19

イスラエルの人々は、聖所の奉納物を進んで持ってきた。そして、「人を教える力」を与えられたベツァエル、オホリアブが働き人たちを指導した。モーセは、指導者たちに指示を伝え、彼らに働き人たちを任せた。一人一人が与えられた賜物によって、幕屋の建設に自発的に仕えた。

クリスチャンは、キリストのからだの部分であり、一人一人がキリストのからだを建て上げるという尊い使命を与えられているんだ。

祈 イエス様、与えられている賜物を感謝します。互いに愛し合うことができるように助けてください。

2019/3/21(木)

出エジプト 36:20-38

今日の箇所では、これまでに与えられた指示に従って幕屋が造られたことが書かれている。そして美しい垂れ幕を通らなければ、誰も天国の象徴である最奥の部屋である至聖所に入ることは出来なかった。しかし、イエスの死によって、幕屋の時代は終わり、イエスを信じる者の心の中に神の国を持つことができるようになった。

イスラエル宣教ツアーの話などを通して、イスラエルの現状を知った私たちは自分の周りのことだけでなく、もっとたくさんのかを祈る必要がある。神の選ばれた民であるユダヤ人に大きな救いが起きよう私たちも祈ろう！

2019/3/22(金)

出エジプト 37章

契約の箱や燭台など、幕屋の中の至聖所と聖所に置かれるものを作ったことが書かれているね。これらは神様ご自身を表すものとしてデザインされているんだ。だから寸法や材料や形など、僕らには分からないことでも、実は意味があることなんだね。特に契約の箱は神様の臨在を象徴するものだった。だからイスラエルの民は、契約の箱の存在を思う時に、神様が共にいてくださる約束をいつも思い起こしたんだ。

今私たちはイエス様が来られた新しい約束の時代に生きています。幕屋ではなく、何と私たちの内にイエス様がいてくださるんだ！今日一日、私たちの内にイエス様がいてくださることをいつも思い起こして歩んでいこう！！

2019/3/23(土)

出エジプト 38章

今日の箇所は祭壇とその全ての道具や、幕屋に入る人が手足をきよめる洗盤、庭を囲む幕が作られたことや、その詳細が書いてある。これは人の罪の犠牲を献げるためにとても大切なものだった。だから量とか、長さとかもとても細かく記録されているね。

はじめのアダムとエバが罪を犯した時から、全ての人は罪ある者として生まれている。だから、その罪のための犠牲がいつも不可欠で、それを献げる場所がなくてはならないものだったんだ。

本当は私たちもそれをする必要があった。だけど、その犠牲はイエス様が十字架にかかってくださったことで完全に完成しているんだ。そのことに感謝して、イエス様から与えられたいのちを受けよう！

2019/3/24(日)

出エジプト 39:1-21

今日の箇所では、祭司のための式服が作製されたことが書かれています。なぜ神様はイスラエルに祭司をお与えになったのでしょうか？祭司の神様と人との間に立ち、とりなしの祈りをささげ、罪のなだめのために犠牲をささげました。また大祭司の役割はイエス様の役割であり、民のためにとりなし、人の罪を負って神様の御前に入るあわれみ深い心を持つことが求められていました。

しかし、大祭司とイエス様とでは異なる点があります。それは大祭司自身が罪人であるがゆえに自分のためにも犠牲を必要としましたが、イエス様は罪がなかったのでご自身のための犠牲は必要としませんでした。ゆえにイエス様が命をささげられたのは自分のためではなく、私たち人のためだったのです。

私たちの大祭司であるイエス様に感謝を捧げよう！！